

とうきょうすくわくプログラム活動報告書

園名	久米川保育園
日時	令和7年4月9日

1. 活動テーマ

<テーマ>

自然・・・4歳児「原っぱの自然に触れながら、花を摘もう」

<テーマ設定理由>

毎年、花まつりを行っている。はなまつりのうたの歌詞「ののさまにあげましょきれいなおはな…」を歌い、明日の花まつりに向けて、購入した花だけでなく、自分たちで摘んだお花をのの様に飾るために原っぱに出掛けることにした。

2. 活動スケジュール

今年度はじめてのすくわくプログラムということで、テーマの「自然」について、まずは身近な広場に出かけて、その場にある自然に触れることから始める。目標としては自分で花を見つけて摘み、自分でビニール袋に入れて持ち帰ること、園に帰ってからプラスチックのコップに水を差し花が枯れないようにすること。身近な自然に触れることから始め、その中で子どもが興味を持ったこと、物について探究を深めていきたい。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- 一人に一つずつ取っ手の付いたビニール袋
- 一つずつプラスチックのコップ（帰園後、ビニール袋から出して入れ替える）
- 撮影、記録用のカメラ
- 場所：近隣団地内の原っぱ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

翌日の花まつりでお供えする花を摘みに原っぱに出かける。まずは、花を見つけることから取り組む。花以外にも子どもがお供えしたいと思った花、見つけた花でもよいことを伝える。子どもが見つけたもの、感じたこと、考えたことなど、その表情や動きなどを受け止める。子どもから生まれた疑問や発見について、一緒に考えたり、問いかけたりしながら考察し、興味を深められるようにする。

後日→



<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関り>

- 原っぱに出かけることを子どもに伝える。子ども達は何度も行ったことがあるので場所を知っていてイメージを抱きやすいのか、嬉しそうに反応する。
- 行ったことがない新入園児については、すぐ近くの広場で、とても広くて草花がたくさんあることを話した。「お花さがしたい」「きれいにさいてるかな」と嬉しそうに答えていた。
- 団地の生け垣を曲がると、広場がありその先に広い原っぱがすぐ目に入るので、一面緑の原っぱが目に入ったのか「いっぱいある」「お花あった」と声をあげる子どもが数人いた。
- 説明を終えるとすぐに探し始めた。花は原っぱのあちらこちらに点在している。見つけた花のもとへ駆けていく子どもたち。
- すぐに数種類の花が見つかる。見つけるたびに「せんせいあった」「みつけた」と言いながら花を摘む。
- 摘む、ということがわからなかった子どももいる。茎から取らずに花の部分を取る子どももいる。
- 草花やキノコなどに詳しい子どもがいる。根っこから抜いてしまうことで、草が「枯れる」ということを友達に話している。子どもなりに草花がしんでしまうことを「枯れる」、枯れないために水に入れて、「お水が飲めるように」茎から抜くといいいことを教えてくれた。
- このことから、乱暴に抜かないでゆっくり茎から折る子どもの姿が見られる。草花を大切にしようという気持ちにつながったように見受けられる。
- 「ののさまにあげたい」ということを意識して、「子どもなりにどのお花がきれいかな」とたくさんある花の中から選んでいる。たくさん抜いてしまうと原っぱのお花がなくなってしまうので、きれいなお花を選んでいる姿も見られた。あるいは、気に入った分だけたくさん摘んでいる子どももいた。
- 草花以外では、のびるを見つけて抜いていた。葱のような、カブのようなその形状から子どもも興味をもって、お供えすることを喜んでいる様子。
- 園に帰ってから、ビニール袋に集めた草花をプラスチックのコップに移した。枯れてしまうことが分かった子ども達は自分でコップに水を入れて、こぼさないように大切に運んでいた。
- 翌日の花まつりでは、献花のお花と共に4歳児が摘んできた花が並び、自分で選んだ花をお供えできたことに子ども達は満足していた様子。
- この後もしばらくは、コップに入れて園庭で花を活けて、日々水を入れ替え大切に眺めている。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- 園庭で育てているチューリップが咲くと大喜びする子ども達。日頃から園庭の木々や草花、プランターに植えた花などに関心を持っている子ども達なので花を見るのも、探すのもきっと楽しかったのではないかと、その様子が伝わってくる。
- 今日は自分で探した花を摘むことができるということで、とても嬉しかったようだった。日頃から大切に育てている花は取らないことが身についているだけに、花を摘むということ自体に「いいのかな」と感じる子どももいた。そのこと自体は咲いている花を大切に育てていることが確認できて嬉しいことだった。
- 摘んでいいことが分かったうえで尚慎重に、ある意味緊張しつつ大切に摘もうとしている姿がつつましく微笑ましい。
- お供えすることを意識してきれいな花を見つけようとする意識が感じられた。
- 草花について博学な子どももいて、知識の共有ができたことが嬉しい。探究していく中で友達の知っていること、発言していることに耳を傾け、理解して自分自身に取り入れていく姿から、学び合いのすばらしさを感じた。保育室には参考となる草花図鑑も子ども達がよく目にしていて、探究心の発展につながるのではないかと。
- 当日だけで終わらない継続的な活動になっている。翌日の花まつりへの期待も高まり、その後大切にお世話をし続けている様子も見られて、より大切にしようとする気持ちや草花への探究心も育まれていくのではないかと。
- 一人ずつプラスチックコップを用意したので、さらに自分のものという気持ちが強くなって満足していた。
- 自然への関わりは、常に意識していないと後回しになってしまいがちなもので、子ども達の気づきにこたえながら、いつでもきっかけになるような経験を持てるようにしていきたい。